



男子90キロ級決勝でマイスラセ選手(下)を
攻める村尾選手(AFP時事)



女子78キロ級決勝で
韓国選手(右)を攻める
池田選手

柔道GS東京

五輪銀の

村尾選手が連覇

女子78キロは池田選手制す

柔道のグランドスラム(GS)東京大会は7、8日、東京体育館で男女14階級が行われた。男子90キロ級はパリ五輪銀メダリストの村尾三四郎選手が連覇を果たした。準決勝で2024年世界王者の田嶋剛希選手、決勝は23年世界王者のルカ・マイスラセ選手(ジョージア)を下した。ロサンゼルス五輪での金メダルは大きな目標。「あまり考えずに、目の前の試合を一つ一つ着実に勝って、そこに五輪がある」。上々の再スタートを切った村尾選手は風格たつぷりに前を見据えた。同73キロ級は、田中龍雅選手が決勝で世界選手権2位の石原樹選手を延長の末に破った。同60キロ級は中村太樹選手が決勝でパリ五輪銅の永山竜樹選手に勝った。

女子78キロ級は22歳の大学生池田紅選手が制した。決勝では「自分がやりたかったことが何もできなかったら一番の悔しさになる」と腹をくくり、果敢に前へ出て栄冠を手にした。日本女子の塚田真希監督はロス五輪に向け「希望の光が見える」と評価した。同78キロ超級は新井万央選手が連覇した。



5区、新谷選手(左)を
抜き返す鈴木選手
[代表撮影]



胸上げされる日本郵政
グループの高橋監督

クイーンズ駅伝

日本郵政G、4年ぶり4度目V
積水化学との競り合い制す

第44回全日本実業団対抗女子駅伝(クイーンズ駅伝)は、日本郵政グループが最終盤まで続いた積水化学との接戦を制し、4年ぶり4度目の栄冠を手にした。11月24日に宮城県松島町文化観光交流館前から仙台市の弘進ゴムアスリートパーク仙台までの6区間42・195キロのコースに24チームが出場して行われ、日本郵政グループが2時間13分54秒で頂点に立った。連覇を狙った積水化学は27秒差の2位。しまむらが3位に入り、4位はパナソニック。5位はエディオンだった。

4区でトップに立った日本郵政グループは5区の鈴木亜由子選手が粘った。積水化学の新谷仁美選手に中盤にはわずかに先行を許したが1秒先着。6区太田琴菜選手の力走で勝負を決めた。難敵、積水化学を退け女王の座を奪還し、創部10年に花を添えた。高橋昌彦監督は「駅伝は6人の力が足し算ではなく掛け算になることがある」。チーム一丸になっての勝利を誇った。

